〔十六夜日記〕不破の關やのいたびさしは、いまもかはらざりけり、

ひまおほきふはの關屋はこの程の時雨も月もいかにもるらん

〔底倉之記〕元中四年二月、伊達信夫南部下山田村庄司岩城刑部大輔忠門、相馬下野守以下、靈山ニ會合シテ、著到ノ勢二万七千餘騎、義隆貞方兩大將トシテ白河ヘ發向ス、親朝是ヲ聞、今度ハ宮方目ニアマル大軍ナレバ、平場ノ掛合ハカナフマジ、難所ニ引籠リ討出フセグベシト、白河ノ關ヲサシ固メ、渡リ櫓、高矢倉、三十餘ケ所ニカキナラベ、强弓ノ精兵ヲスグリ上セ置キ、塀ウラニ大木大石ヲツミタクワヘ、用心嚴シク待カケタリ、味方ノ勢ハ三月一日白河近ク寄、〇中略關近クナリケル時、木戸ヲ押開キ、眞先ニ結城ノ一族佐原備前守ト名乘テ、〇中略大勢ノ中ヘ打テ入〇下略

〔小島のくちずさみ〕不破の關屋はむかしだにあれにければ、かたのやうなる板びさし、竹のあみどばかりぞのこりける、げにあき風もたまるまじうみえたり、

昔だにあれにしふはの關なれば今はさながら名のみ成けり

〔覽富士記〕不破の關すぎ侍りしに、もるとしもなきのとぼそ苔のみふかくて、中々見どころ有、戸ざしをばいく世忘れてかくばかりこけのみとづるふはの關やぞ

〔美濃明細記十〕永享四年富士見に下向の時に、俄に關屋をふきかへければ、

將軍普廣院義敎

ふきかへて月こそもらぬ板びさしとくすみあらせ不破の關守

〔伊勢參宮名所圖會二〕關今驛宿の名とはなりたれども、いにしへ鈴鹿の關と云は此所なり、關屋の事、關の驛西の入口より二三町東を中木戸町といふ、此所人家の間に細き小路を南へ通る所、昔の關屋の跡なるよしいひ傳ふ、

〔新編相模國風土記稿二十二足柄下郡〕關所二　箱根、箱根宿ノ屬　根府川、根府川村ノ屬　幷大久保加賀守忠眞預レリ、〇中略